

『主イエスの御名により』 エペソ人への手紙1章17～21節 2015.10.18(主日礼拝説教より)

『あなたがたのすることは、言葉によると行いによるとを問わず、全て主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。』コロサイ 3:17

◆目に見えない神の全能は、目に見えるこの世でキリストの生涯に現された。キリストを死から甦らせ！ご自分の右の座に着かせ！すべての名の上に置かれた(20節)！今も生けるキリストが、世の終わりに私たちを迎えに来られる！これがイエスを信じる者の慰めであり希望である。

◆「右／右の座」とは、旧約では「力や権威」を現したが、新約ではキリストご自身を指す。十字架の前イエスは、大祭司カヤパに『…人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見る…(マルコ 14:62)』と答え、聖霊によりペテロは、『神はこのイエスをよみがえらせ…神の右に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて…注ぎになった…(使徒 2:32～33)』と証し、最初の殉教者ステパノは臨終に際し、『…天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て…「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます」(使徒 7:55～56)』と歓喜し、ヘブル書には『信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは…十字架を忍び、神の御座の右に着座されました(ヘブル 12:2)』とある。主イエスは、今と後の世の完全な支配者として「御座」に着かれた。『主イエスの御名によって』祈るとき、私たちは「御座」を仰ぐことになる。

◆生まれつき足が不自由な乞食は、ペテロに『お金はないが私にあるものをあげよう…イエス・キリストの名によって歩け(使徒 3:6)』と言われ、すぐに躍り上がって立ち、神を賛美した！『御名』は『御座』を開き、あなたの信仰と必要に応じて力と知恵と慰めを溢れ注ぐ！イエス様を信じて罪赦され、主の御名を呼ぶ時、私たちは神の子として御座に共に座る者とされた(エペソ 2:6)。『御座』から注がれる『おりにかなった助けをいただく(ヘブル 4:16)』とは、今あなたが必要としている神の全能の力を受けること。御名を通して主に結ばれた者は、『主が私の右におられるので…ゆるぐことがない(詩篇 16:8)』人生を神に感謝し、隣人に証する者とされる！